



あっ!しまった!

高齢ドライバーの皆さん 不安なく運転できていますか

## 明日後悔しないために 今日できること

近年社会問題となっている高齢ドライバーによる交通事故。重大な事故を起こし、後悔しないためにできる対策と、実際に取り組んだ人の声を紹介します。

問生活安心課 ☎(632)2264

ID 1003479

### 私のアクション / CASE1

#### 乗り換えていて良かった

全国各地で発生し、報道される高齢者の交通事故。痛ましい事故に対し、国でも高齢者専用免許証を検討するなど、動きが活発化しています。

そんな中、今年1月に「サポカーS（7ページ参照）」を購入した小原さん。「本当に快適です。勧めてくれた店員さんに本当に感謝です」と、充実した生活に笑顔があふれます。

「免許返納は、自分の生活スタイルと環境を考えると難しい」。そんな時に、サポカーSと出会いました。元々すぐに買い替えは考えていなかったという小原さん。「今の車もまだ乗れるしいいや」と考えていたそうですが、安全性が高く、月々の支払い額が現実的だったことも後押しになったそうです。



▲マイカーを見つめる小原さん。「以前の車に比べて、燃費も良く、静かで乗り心地も快適。友達にも大好評です」と笑顔。

現在は注意して運転することを心掛けながらも「サポカー」が守ってくれていて心強さが



小原 のりこ さん (73歳)

ある」と言います。「実は、道端に知り合いを見つけて、よそ見をしてしまったことがありました。その時に急に目の前に自動車が現れて。でも、アラームが鳴ってすぐ止まることができました。乗り換えていて良かったと思った瞬間でしたね」と振り返ります。

#### 誰にも傷ついたらほしくない

高齢者の交通事故のニュースに心を痛めます。「もしも、未来ある若い人たちが子どもたちをひいてしまったら」。被害者はもちろん、加害者になるのも辛く悲惨なこと。それまでの自分の人生も「台無し」と真剣に語る小原さん。「私の場合は、行きつけの販売店でのサポカー体験がとても印象的でした。テレビで見るよりも、実体験は大きかったです。皆さんも一度、実感してみてください」と思いを馳せています。



# 後悔しないための4つのアクション

アクション

## 01 自分の状態を確認してみる 身体機能測定器体験会



身体機能測定器を使って自分の反応速度を測定します。身体機能の現状を確認してみましょう。

- ▼日時 8月21日(水)午前9時～午後4時(所要時間10分程度)。
- ▼会場 生活安心課(市役所2階)。
- ▼対象 高齢ドライバーなど。運転免許の無い人も可。

アクション

## 02 公共交通を使って外出する 地域内交通

ID 1006101

市では、郊外部全13地区で地域内交通を運行しています。お住まいの地区において、事前登録をすれば利用でき、運賃は大人1回片道300円と安価。自宅まで迎えに来てもらい、決められたスーパーや診療所まで行くことができるなど大変便利です(※1)。

まずは、自動車を運転する人も一度、地域内交通を使ってみませんか。

☎交通政策課☎(632)2132



アクション

## 03 安全運転サポート車に乗り換える サポカーS

「サポカーS」とは、セーフティ・サポートカーSの略。被害軽減(自動)ブレーキや、ペダル踏み間違い時加速抑制装置などが搭載された、交通事故防止に効果が見込まれる車です。車の買い替えの際は、サポカーSを検討してみてもいいでしょうか。



あくまでも安全運転の支援であり、機能には限界があります。機能を過信せず、常に安全運転を心掛けてください。

▲サポカーS URL

アクション

## 04 免許証を返納する 運転免許の自主返納制度

運転免許証を返納した人は、手数料1,100円(※2)で「運転経歴証明書」を手に入れ、身分証明書として使用できます。運転経歴証明書を提示すると、県交通安全協会各協賛店での割引サービスや、県タクシー協会・県個人タクシー協会で運賃の10%が割り引きされます(※3)。

自主返納の手続きについて、詳しくは、運転免許センター☎0289(76)0110または各警察署へ。

### 私のアクション / CASE2

#### 人を傷つけたら終わり

運転免許証を返納した三森さん。きっかけは体調の変化を実感したことでした。「60代を迎えて目の疲れを感じたのが最初。とっさの判断も鈍くなったように感じましたね」と当時を振り返ります。車を運転し始めた20代前半から無事故無違反。仕事でも毎日運転し、車のある生活が当たり前でした。それでも、退職のタイミングで車の運転を断ち数年。昨年の免許更新時に返納を決めました。

「返納して後悔しないか不安があった」と話しますが、それでも背中を押されたのは事故を起こした時のリスクでした。「人を傷つけてしまったら終わり。そうなる前に返納しよう」と考えました。

#### 何でも便利でなくっていい

返納後の生活に不便は感じないといいます。「高齢になったら、だんだんと生活のスタイルを変えていくべきだと思ったんです。何でも便利な時代ですが、不便さを楽しむ余裕を持たないと」とほほ笑む三森さん。

「別に免許証を返納しても、家にこもっているわけではありませ

#### 不安は行動のサイン

「最近、主人は近所の外出には電動自転車を使うようになりました。少しずつ意識が変わってきたのかも」と、言います。

今後望むのは周囲の同世代への思い。「二度でもヒヤっとしたことがあるなら、それはたまたま事故にならなかつただけかもしれない。免許証を返納せずとも、まずは運転しないという選択もあります。不安を感じたことがあるなら何か行動を起こすサインだと思います」。



三森 由美さん (69歳)

※1 清原さきがけ号のみ、運賃・運行方法共に異なります。詳しくは、交通政策課へお問い合わせください。

※2 交通安全協会会員は半額の補助制度あり。詳しくは、県交通安全協会☎(622)8483へ。

※3 各サービスについて、詳しくは、県交通安全協会☎(622)8483、県タクシー協会☎(658)2411、県個人タクシー協会☎(639)9511へ。